

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【文学部】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 二年次の演習科目の設立等、具体的内容に言及しているため。（評価者 A） ・ 現時点での課題が具体的に挙げられており、それを解決することを通して果たされるべき目標が掲げられています。（評価者 B） ・ 初年次、2 年次教育の活性化が目標となっているため。（評価者 C）
「具体的でない」 0 名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・ 「このリンクを補う工夫を考案する必要である。」は「必要がある」の入力ミスと思われます。ご確認ください。（評価者 A）	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 全体として適切な目標であると思われます。（評価者 A） ・ 学部教育の目標に掲げられた内容を、今日的な社会情勢のもとで実現することを目指している点において適切です。（評価者 B） ・ ①②③④とも妥当、適切です。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ %として表現することの内容が具体的に何を指しているかわかりにくい面があると思われます。（評価者 A） ・ より具体的な指標の提示が望まれます。（評価者 B） ・ 妥当です。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切であると思われます。（評価者 A） ・ 適切です。（評価者 B） ・ 適切です。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 副専攻制度、総合科目、インターナショナルセミナーの具体的内容について言及しているため。（評価者A） ・ 多様な研究分野にまたがる学部における教育活動を、より学際的な内容へと充実化させることが目標として提示されています。（評価者B） ・ 多様な次元において学際的な教育ならびに研究を可能にする環境を構築することが目標となっているため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 全体として適切な目標であると思われます。（評価者A） ・ 文学部の独自性を活かすかたちで、さらに関西学院大学が取り組むSGUプログラムとの連動性も踏まえて、目標が設定されています。（評価者B） ・ ①②③④とも妥当、適切です。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ %による評価となっていますが、総合科目の開講数など具体的な数を挙げられるものについては、数値を挙げてもよいのではないかと思います。（評価者A） ・ より具体的な評価指標の提示が求められます。（評価者B） ・ 妥当です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切であると思われます。（評価者A） ・ 適切です。（評価者B） ・ 適切です。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハンズオン・ラーニング・プログラムの計画について具体的内容が記されているため。(評価者A) ・ 大学で学んだ／身につけた知識・技能を現実社会での問題解決に応用できる人材を育成するプログラムが示されています。(評価者B) ・ 自身の学びを通じて得たものが何かを捉え直させるきっかけとして勉学の場を大学の外にも設け、社会への貢献という要素をも含んだ学問的素養の深化を図らせることに関するところが目標となっているため。(評価者C)
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体として適切な内容であると思われます。(評価者A) ・ 学際的な教育プログラムのもとで習得した知識と技能を実社会で活かしていく人材教育の実現に向けた目標が適切に設定されています。(評価者B) ・ ①②③④とも妥当、適切です。(評価者C)
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当なものであると思われます。(評価者A) ・ 具体的で妥当です。(評価者B) ・ 妥当です。(評価者C)
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切です。(評価者B) ・ 適切です。(評価者C)

教育研究目標 4

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人文演習、総合科目といった具体的な科目に触れているため。（評価者A） ・ 「他者との交流・対話」を重視するという教育目標が適切に示されています。（評価者B） ・ 学生が他者との交流・対話の中から多角的な視野を持った人間として成長するための教育・研究環境を構築に関することが目標となっているため。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体として適切な計画であると思われます。（評価者A） ・ 文学部における教育の独自性（少人数教育など）を活かすかたちで、より広い視野を有する人材の教育を目指すことには大きな意義があります。（評価者B） ・ ①②③④とも妥当、適切です。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標自体は具体的なものと思われませんが、その進捗の度合いについては基準が定められていないため、わかりにくいものとなっている面があるように思われます。外部スピーカーを招く総合科目を3科目開講する、といった数値目標がないため、外部から評価することが困難です。（評価者A） ・ より具体的な評価指標の提示が求められます。（評価者B） ・ 妥当です。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切です。（評価者B） ・ 適切です。（評価者C）

教育研究目標 5

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒論の提出率等具体的な内容に言及しているため。(評価者A) 学部教育の集大成である卒業論文の質の向上を目標に掲げ、その実現に向けた行動計画が適切に示されています。(評価者B) 学修の集大成の卒論に関する目標となっているため。(評価者C)
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿(目標)の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 全体としては適切なものと思われます。(評価者A) 文学部の教育特性(少人数教育)を活かすかたちで、学部での教育における集大成である卒業論文の質の向上を目指すことは大変に意義深い取り組みです。(評価者B) ①②③④とも妥当、適切です。(評価者C)
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 演習の小規模化についてはある程度数値化し、20%、40%といった評価ができると思われますが、評価の客観性の確保については前述のような数値化が難しいのではないかと思います。ただし、これは人文系の学問分野に数値化された指標を導入することの問題性でもあります。(評価者A) より具体的な数値を評価指標とすることが望まれます。(評価者B) 妥当です。(評価者C)
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 適切であると思われます。(評価者A) 適切です。(評価者B) 適切です。(評価者C)